
久良岐保育園

評価結果

2014年 3月 28日 公表

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関第26号 横浜市福祉サービス第三者評価指定機関第17号

評価実施機関：特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター

〒231-0013 横浜市中区住吉町 2-17 金井ビル 201号

TEL045-228-9117・FAX045-228-9118

<http://www.yresearch-center.jp>



実施概要

事業所名	久良岐保育園
報告書作成日	2014年2月4日 (評価に要した期間 5か月間)
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

*評価方法

1. 自己評価	<p>【実施期間：2013年9月1日～2013年10月28日】</p> <ul style="list-style-type: none">・職員会議で説明後、自己評価票を非常勤も含めた全職員に配付し、記入した。・個人が記入したものを、クラスごとに話し合いの時間をとり設問の理解を含めて意見交換しながら確認。クラスとしてまとめたものを園長に提出。園長と主任2名で協議し、一つにまとめた。
2. 利用者家族アンケート調査	<p>【実施期間：2013年10月10日～2013年10月25日】</p> <p>配付：全園児の保護者(110家族)に対して、園から手渡した。 回収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。</p>
3. 訪問実地調査	<p>【実施日：2013年11月28日、2013年12月2日】</p> <p>第1日目 午前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。 午後：書類調査、事業者面接調査(園長)</p> <p>第2日目 午前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。 午後：職員ヒアリング(主任保育士2名、クラスリーダー保育士6名、栄養士、調理員、非常勤職員、新入職員)、事業者面接調査(園長)</p>
4. 利用者本人調査	<p>【実施日：2013年11月28日、2013年12月2日】</p> <ul style="list-style-type: none">・訪問日両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排せつ、午睡の状況、登降園の様子などを観察。・乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間などに適宜聞き取り調査を実施。

評価結果についての講評

(高く評価できる点、独自性のある点、今後期待される点、工夫改善点などについての総括)

【施設の概要】

久良岐保育園は京浜急行「弘明寺」駅から歩いて15分程の緑豊かな住宅地の中にあります。周辺は起伏がある地形で、公園や寺、商店街もあり、子どもたちの散歩コースとなっています。

園は昭和26年(1951年)8月に開設された歴史ある保育園です。その後、昭和46年に現在の園舎に改築し今に至っています。運営法人は社会福祉法人久良岐母子福祉会です。同じ建物の2・3階に乳児院と母子生活支援施設、南区内に保育園をもう1園運営しています。

敷地は3426㎡と広く、幼児用と乳児用の二つの園庭とプールがあります。園舎は乳児専用の園庭を囲み、乳児棟と幼児棟に分かれています。

定員は120人(0歳児～5歳児)、開園時間は平日7:00～19:00、土曜7:30～16:00です。

基本理念は「強く 正しく 明るく」、保育目標は「心身ともに健康に育てる」「工夫し考えて遊ぶ力を育てる」「豊かな経験を通し感性を育てる」「保護者と地域のつながりを育てる」です。

1. 高く評価できる点

豊かな自然に囲まれ、子どもたちはのびのびと園生活を楽しんでいます

広い敷地には、幼児が用いる広い園庭と乳児専用の中庭があります。幼児が用いる園庭には大型のアスレチックや鉄棒、平均台、登り棒などがあり、子どもたちは思いっきり身体を動かしています。子ども一人一人が好きな遊びをするのに十分な広さがあるので、他の子どもの空間とぶつかることもなく満足するまで遊びこむことができます。子どもたちは、それぞれの遊びをつなげて数人で遊んだり、集団でのゲーム性のある遊びに発展させたりと、自由自在に個々の遊びを広げ友達との関係を築いています。園庭で十分に身体を動かした後には、製作等の室内での一斉活動に集中して取り組んでいます。

乳児専用の園庭には、砂場や滑り台、ままごとの家等の年齢や発達に合わせた遊具が設置されています。砂地で適度な斜面や段差があり、三輪車やボール等も豊富に用意され、子どもたちが遊びを通して自然に脚力や筋力を鍛えられるように工夫されています。保育士は危険がないようそばで見守り、必要に応じて声掛けしておもちゃを足したり、自らが遊んでみせたりし、子どもが遊びを広げられるよう支援しています。ゆったりとした日案には、室内と園庭、動と静の活動がバランスよく組み立てられていて、切り替え時には手遊びや絵本読みで気持ちを落ち着けています。生活の場面で保育担当制をとっていることもあり、子どもたちは保育士の見守りのもと安心してそれぞれの興味のあることに熱中しています。

また、園の周りにはたくさんの自然があり、子どもたちは遊びの中に草や花、木の実、虫などを自然に取り入れていきます。風で舞い上がる落ち葉に歓声を上げ、虫を探して皆で観察し、好きな絵本と木の実や落ち葉を結び付けてごっこ遊びをするなど、豊かな自然の中から多くのことを学び、感性を養い、想像力を広げています。

園では乳児だけでなく全園児に個別の指導計画を作成し、一人一人の発達や個性を把握し、個々を大切に保育にあたっています。一人一人の個性を保育士に受け止められ、子どもたちは安心してのびのびと自分を表現し、園生活を楽しんでいます。

保育士は常に自身を振り返り、理念の実践に努めています

保育士は子どもの人格尊重について常に意識して保育にあたるよう、園独自のコンプライアンスチェックシートを用い常に自分自身を振り返っています。コンプライアンスチェックシートには権利擁護、利用者の代弁、子どもの発達保障、チームワークと自己評価等の項目があり、保育士は毎日これらの項目について振り返りチェックし、週ごとにまとめとして自己評価をしています。保育士は子どもの目線に合わせ、ゆっくりと分かりやすい言葉で話しかけ、子どもの言葉に耳を傾け、一人一人の子どもの気持ちを受け止めるよう努めています。また、指導計画には反省・評価の欄が設けられ具体的な計画の実践についても振り返りを行い、随時見直しを行っています。

保育士は年 4 回の法人研修を始め、園外研修、保育に関する大会等に積極的に参加し、自己研鑽に励んでいます。外部講師による音楽指導研修や栄養士・調理師向けのスーパーバイザーによる研修等も実施し、保育の現場に活かしています。また、今年度から始めた係活動では、全ての職員が何らかの係活動に属していて、職員自身が考え責任を持って活動しています。おもちゃ係が中心になって発達や年齢にふさわしいおもちゃであるかを話し合い環境を整備する、環境係が危険箇所のチェックを行い園庭マップを作成するなど、保育士が主体的に動き、自分たちを振り返り改善につなげています。

保育士の個別面談は年 2 回主任が行い、期の課題の設定とその達成状況について話し合っています。主任は個々の職員の能力や経験を把握しており、的確な助言や指導を受けられる体制ができています。

このような体制のもと、保育士は目指す保育の実践に向けて自己研鑽を重ね、理念の実践に努めています。

地域の施設として根付いています

「保育園は地域の大きな公共施設」であるとの思いから、積極的に施設を地域に開放し、地域との協力関係を築いています。地域の理事会に会議室、地域の夏祭りの準備に給食室等を提供するほか、地域の防災訓練を園庭で実施しています。また、くらき祭り、運動会等の園の行事に地域住民を招待しています。園長は地域の集まりに積極的に参加し、情報収集するとともに、保育園に対する地域の理解を得られるよう働きかけています。

地域の親子に対しては、園庭開放を週 2 回実施しています。また、子育て支援事業を実施していて、毎回 10 組以上の親子の参加があります。今年度は「わらべ歌で遊ぼう」「和太鼓教室」「七夕飾りを作ろう」を実施しました。地域からの要望を受けて、1 月からは一時保育事業を開始する予定です。

日常的な交流としては、子どもたちは散歩や買い物に地域に出かけ、地域住民と挨拶を交わしています。南土木事務所と自治会の公園愛護会と一緒に子どもたちが地域の公園に花の種をまいたり、地域のお年寄りと交流会食会を開いたり、地域のお祭りで 5 歳児と職員が和太鼓を演奏したりして交流しています。幼保小教育連携事業の取り組みでの小学校訪問、高校生のボランティアの受け入れ、地域の保育園との「ティ・ボール」の交流試合等の機会もあります。

60 年余の歴史を通し園は地域の施設として根付いていて、子どもたちは地域に見守られ、多くのことを学び成長しています。

2. 工夫・改善が望まれる点

保護者とのコミュニケーションを深めるためのさらなる工夫が望まれます

園は保護者との会話を大切にしている、送迎時には保育士はできるだけ保護者に声かけをし、話を聞いています。乳児は毎日の連絡帳で丁寧に情報提供しています。また、3ヶ月ごとに全園児の個別保育計画を作成し、3ヶ月ごと保護者に個々の子どもの目標を示し、保護者から家庭での様子を書いてもらい情報共有しています。しかし、延長保育や幼児の保護者等には「先生と話す機会がない」「コミュニケーションがとりづらい」という声もあります。声を上げにくい保護者の声を聞き取るためのさらなる工夫が望まれます。

また、全般的な園の方針については、園便りやクラス便りに記載するほか、懇談会で保護者に口頭で説明しています。しかし、アンケートには施設の老朽化や安全性等について不安の声があります。園の方針や対策について今後も説明に努めることが期待されます。





分類別評価結果






「ひょう太マーク」は、各評価分類の水準を表しています。

3 つ：高い水準にある 2 つ：一定の水準にある 1 つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と 保育課程等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 法人の基本理念は「強く、正しく、明るく」、園の保育目標は「1. 心身ともに健康に育てる 2. 工夫し考えて遊ぶ力を育てる 3. 豊かな体験をとおり感性を育てる 4. 保護者や地域のつながりの中で育てる」であり、子どもを尊重したものとなっています。 保育課程は初めに法人の基本理念、次に園の保育目標を掲げ、子どもの最善の利益を第一義にして作成されています。 <p>指導計画は週案におおした具体的なものを朝の会等で子どもたちに説明し、言葉で表現できる子どもからは意見や希望を聞いています。言葉で表現できない子どもについては、表情や興味を持った姿等から意思をくみ取り、指導計画に反映させています。</p>
<p>I-2 子どもの発達や状況に 応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 入園説明会の事前に児童票、児童健康台帳、健康調査票等を保護者に送付し、入園説明会の日に記入したものを持ってきてもらっています。後日実施される個別の面談の際にそれらをチェックしながら生育歴等について話し合います。また、新入園児面談表に沿って、子どもの好きな遊びや食べ物、排泄、睡眠の様子、アレルギー等、具体的な家庭での様子を聞き取り、子どもの全体像と課題を把握します。 新入園に際し、短縮保育の基本を一週間とし、保護者へは入園説明会の際に十分に必要性を説明していますが、不都合がある場合は個別に園長と話し合い、実情に応じて日程を決めています。 0歳児クラスは個別に担当の保育者を決め、食事・排泄等の生活面は1対1で対応しています。1, 2歳児クラスではゆるやかな担当制をとっているため、新入園児が加わっても特に動揺することはありませんが、保育補助が一名入り、保育士が子どもに十分に関わられるように配慮しています。また乳児クラスは日々の生活と遊びについて複写式の詳しい連絡帳を使用して、保護者との連携を図っています。 年間指導計画は、各クラスの担当保育士が作成し、主任と園長が目を通して確認し、コメントを添えます。それに従って修正し完成させています。月間指導計画も同様にして作成しています。 月間指導計画の「月のねらい」とその月の「自己評価」・翌月の「月

	<p>のねらい」が連動していないので、それらがつながりを持って記述され、保育に活かされることが望めます。</p>
<p>- 3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園内外の清掃については「清掃マニュアル」を作成していて、それに従って清掃、消毒等をしています。 保育室、トイレ、ベランダ、園庭など、全て掃除が行き届いて清潔に保たれています。 ・0歳児室に沐浴設備があり、乳児室と幼児トイレと教材室に温水シャワーの設備があります。 ・乳児クラスは子どもを2グループに分け、保育室を棚等で仕切って2室にし、生活面では小グループごとに行動しています。遊びの時はグループ分けはせず、敷き物や衝立等でコーナーを作り、どの子どもも好きなコーナーで遊べるようにしています。 ・0歳児保育室は畳の部屋があり、寝室となっています。他のクラスでも保育室が広い場合は棚などで仕切って、食べる・寝る等の空間を分けています。しかし、一部の保育室では食事スペースと布団を敷くスペースの間に隙間がなく、布団を踏んでいく状況もあるので、空間を使い分けるための工夫が望めます。
<p>- 4 一人一人の子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導計画と個別保育計画とを3歳未満児だけでなく、全園児について作成しています。 ・個別指導計画は年間指導計画の各領域に沿った子どもの姿や保育内容、ねらい、援助と配慮等が記されています。 ・個別保育計画は、月のねらいや子どもの様子、具体的な取り組みのほかに保護者記入欄があり、保護者に子どもの様子を書いてもらっています。 ・児童票に子どもや家庭の個別の状況・要望等を記録しています。入園後の子どもの成長・発達記録は健康台帳、健康診断記録、個別保育計画、個別指導計画に記載されていて、個別のファイルに収められています。 ・個別保育計画を保護者に手渡していますが、その際にその内容について分かりやすく説明することで、保護者の園の取り組みに対する理解が深まると思われます。
<p>- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮を要する子どもの個別ケースについて、担任と主任、園長でケース会議を実施し、その内容を職員会議で伝え、更に他職員からの意見も聞いて保育上の留意点等を検討し、個別指導計画に反映しています。 ・園舎は築60年ほどで、構造上バリアフリーには作られていません。現在まで身体障がいのある子どもは入園していませんが、入園した場合には段差の解消や人的環境に配慮する準備があります。 ・障がいのある子どもの個別指導計画は障がいの特性を考慮して作成し、保育に関しては必要に応じて医療機関や地域療育センター等の

関係機関と連携する体制があります。

- ・虐待の疑われる場合や見守りが必要な場合は、ケースに応じて地域療育センターや児童相談所と連携しています。
- ・家庭支援の必要な保護者には、担任だけでなく、主任や園長もコミュニケーションをとることを心がけています。また、家庭の様子等を把握し家での対応を話し合える関係になるように配慮しています。
- ・アレルギー疾患のある子どもについては、主治医からの指示書をもって対応し、アレルギー疾患に関する正しい知識を職員会議で共有しています。
- ・代替食・除去食を提供する時は誤食事故防止のため、食器、トレイは別にして個別に名前を書き、ラップをかぶせてシールをつけ、給食室でも保育室でも確認の言葉を掛け合い、何重にもチェックして提供しています。
- ・文化の違う子どもについては、違いを尊重しています。また、言葉で意思疎通の困難な場合は日本語の分かる配偶者等に間に入ってもらい、心をこめて対応することでコミュニケーションを図っています。



- 6




苦情解決体制



- ・園の「しおり」に「ご意見・ご要望をお述べになる機会について」「ご意見・ご要望解決の仕組みについて」という項目を設け、受付担当者、解決責任者、第三者委員を紹介しています。しかし、自分で意見を言いにくい保護者に対して、特に具体的な配慮はしていません。
- ・苦情・要望は、久良岐母子福祉会福祉サービス向上機構規定により、迅速に対応する仕組みが定められています。要望や解決策は職員会議で共有し、また第三者委員会で報告していますが、データを蓄積・整理して解決に活かすまでには至っていません。
- ・自分から意見を述べることの苦手な保護者もいるため、アンケート等で幅広く保護者の意見を求める取り組みの検討が望まれます。今回の第三者評価での利用者アンケートには多くの意見・要望等が寄せられていました。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃ係が中心となりクラス担任全員で話し合い年齢や発達に合わせたおもちゃを選定しています。おもちゃは子どもの目の高さや並べられ、子どもが自分で取り出して遊べるようになっています。 ・ゆったりとした日案となっていて、子どもたちが自分で好きなことをして遊びこめるよう工夫されています。活動の間には手遊びや絵本等で静かな時間を作り、子どもが集中して次の活動に切り替えられるようにしています。 ・乳児用、幼児用と2つの園庭があり、乳児用はおままごとの家や滑り台、砂場等発達に合わせた遊具が用意されています。また、適度な起伏や段差があり子どもが遊びながら脚力を鍛えられるように工夫されています。幼児用は広々として鉄棒や登り棒、アスレチックなどが配置されています。個々の子どもに十分な広さがあるので、一人で砂場で黙々と遊んだり、大勢で走り回ったりそれぞれが好きなことをしています。子どもたちは、鬼ごっこをやりたいグループとかくれんぼをやりたいグループが一つにまとまって隠れ鬼に発展するなど、個々のやりたい遊びを友達と話し合って広がっています。 ・メロン、へちま、ゴーヤ、カボチャ、ジャガイモ等の作物を地域の方が借りてくれた畑（緑の井戸端）で育て、収穫した作物を地域高齢者の昼食会の材料に提供しています。また、金魚、メダカ、カブトムシ、カメ等を飼育しています。園庭には季節の草木がたくさん植わり、虫と触れ合うこともできます。 ・乳児は、わらべ歌をたくさん取り入れ、子どもが歌ったり、身体を動かして自由に表現できるようにしています。幼児は、音楽指導（3～5歳児）や体育指導（4・5歳児）、太鼓（5歳児）等を取り入れ、子どもが様々な経験が出来るようにしています。 ・乳児棟（0・1・2歳児）、幼児棟（3・4・5歳児）に分かれていますが、乳児、幼児は遊びや活動を通して自然に交流しています。また、異年齢の活動として5歳児が3歳児の午睡後の世話をしています。乳児と幼児の交流としては、乳児は5歳児の和太鼓の練習を見に行くなどしています。
<p>- 1 保育内容[生活]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食を食べさせるときには、「おいしいね」「もぐもぐ」「すごい」などと声をかけ、子どもが自分から食べる気持ちになるよう支援しています。 ・幼児棟、2歳児保育室にその日の給食の食材をボードで分かりやすく掲示しています。また、幼児は玉ねぎの皮むき、もやしひげとり、キャベツちぎりなど給食の食材の準備を手伝い、子どもが給食に興味があくようにしています。 ・和食のメニューを多く取り入れ、色どりや季節感を感じられる献立と

	<p>しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長に合わせた皿やスプーンを用いています。子どもの持ちやすいスプーンを検証するなど発達にふさわしい食器であるか常に見直しています。 ・口腔外科の歯科医師による咀嚼についての研修をもとに正しい姿勢で食べられるよう指導しています。 ・2ヶ月に1回外部講師による給食に関する指導を受け、献立やアレルギー、子どもの免疫力を高める食材、食中毒等についてアドバイスを受けています。 ・毎月献立表を作成し、保護者に配布しています。献立表に「給食室から」のコーナーを設け、情報提供しています。 ・午睡の前に絵本の読み聞かせを行い、子どもが気持ちを切り替え心地よい眠りにつけるようにしています。眠れない子どもは午睡を強要せず、保育士と静かに過ごしています。 ・排泄の自立に対しては個人差が大きいことを保護者に伝えて理解を促し、保育園での様子を連絡ノートを用いて保護者に伝え、家庭と連携し排泄の自立に向けての支援をしています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・ 安全管理[健康管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察伝達マニュアルがあり、それに基づき一人一人の健康状態を把握しています。 ・既往症については、入園時に健康調査表に保護者に記入してもらうとともに、新入園児面談で保護者に確認し把握しています。把握した情報は個人ファイルに収め職員間で共有しています。 ・年2回健康診断、年1回歯科健診を実施し、記録しています。健康診断・歯科健診の結果は専用の用紙を用いて保護者に伝えています。 ・感染症に関するマニュアル(伝染病マニュアル)があります。保育中に感染症が発症した場合には、保護者に速やかに連絡し、別室でお迎えを待つ等の対応をしています。 ・感染症が発症した場合には安心メールを用い保護者に一斉配信しています。また、掲示やホワイトボードを用い、保護者に周知しています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・ 安全管理[衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理マニュアル、清掃マニュアルがあり、年に一度、全職員が参加してマニュアルの読み合わせを行い、必要に応じて見直しています。 ・マニュアルに基づき清掃等が行われ、清潔・適切な状態が保たれています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・ 安全管理[安全管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理マニュアルがあり、全職員に周知しています。 ・毎月、地震や火災、土砂災害等を想定した避難訓練を園児も参加して実施しています。保護者に対しては安心メールが一斉配信されるシステムが確立していて、定期的に配信確認をしています。また、併設する母子支援施設、乳児院と合同で年2回、防災総合訓練を実施してい

ます。

- ・子どものけがについては、軽傷であっても連絡ノートに記載するとともに、降園時に保護者に口頭で伝えていきます。子どもの事故やけがは必ずアクシデントレポートに記載し、月ごとに集計し職員会議で検討しています。
- ・環境委員会が中心になり保育士の立ち位置等安全性についての検証を行い、園庭マップを作成するなど、職員は常に安全についての点検を行い、改善に向けて取り組んでいます。
- ・年2回不審者対応訓練を実施していて、1回は警察立ち合いで子どもたちも参加しています。また、防犯マニュアルを策定し職員間で周知しています。ただし、保護者アンケートにおいて不安の声が見受けられますので、園の方針や対策について、折に触れて保護者に説明する必要があるかと思われます。

- 3

人権の尊重



- ・「久良岐母子福祉会倫理綱領」「福祉人としての基本的な心得」の中に、子どもに対しての言葉遣いについて明記し、職員に周知しています。保育士はコンプライアンスチェックシートを用い、毎日振り返りを行い、子どもの人格尊重について常に意識し保育にあたっています。保育士は子どもの目線に合わせ、ゆっくりと分かりやすい言葉で話しかけ、子どもの言葉に耳を傾け、一人一人の子どもの気持ちを受け止めるよう努めています。
- ・保育室には柵や仕切り等を用いたコーナーが設置され、友たちの視線を意識せずに過ごせるよう工夫されています。
- ・個人情報保護に関するガイドラインがあり全職員に周知しています。保護者に対しては具体的な個人情報の取り扱いについて文書で確認しています。個人情報に関わる書類は施錠可能な場所に保管し、適正に管理しています。
- ・保育の中で性差による役割分業意識を植え付けるようなことはありませんが、性差についてあらためて職員同士で反省する仕組みはないので、時々、話し合いお互いを振り返る機会を持つことも必要かと思われます。

- 4

保護者との交流・連携





- ・玄関に基本理念、保育目標を掲示するとともに、年3回の懇談会でも説明しています。
- ・保護者との会話を大切にしていますが、行事後のアンケート等は実施していません。保護者の意向やニーズを把握するためにも、行事後や保育参加の後等にアンケートを実施し保護者の感想や意見を聞き、園の保育についての保護者の理解を確認する機会を設けることが期待されます。
- ・子どもの登降園時には、保護者と会話しその日の子どもの様子を伝えていきます。時間外保育日誌に一人一人の様子や伝達事項、その日の活動等を記入して遅番に伝達し、保護者へ伝わるように工夫していま




す。また、乳児は毎日、幼児は必要に応じて連絡ノートを用いて保護者と情報交換しています。

- ・相談を受けた職員は主任に報告し、必要があれば助言を受けることができます。また、相談内容によっては主任、園長が対応することもあります。ただし、相談内容を記録していないので今後は記録することが望まれます。
- ・園便り、クラス便りを発行し、保護者に情報提供しています。また、ホームページでも保護者に保育の様子を伝えています。ホームページ上には、アクセス制限がかけられた保護者専用コーナーを設け写真を掲載しています。
- ・年に8回1週間ずつ保育参加の期間を設定し、園児一人につき一回、保護者が保育の手伝いをする保育参加の機会を設けています。保育参加の際には給食を試食することができます。
- ・保護者の自主的な活動である保護者会があり、保護者会行事としてクラス交流会、餅つき大会、観劇会等を実施しています。




評価領域 地域支援機能




評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長が自治会の行事に参加し、地域住民と交流する中で地域の要望を把握しています。また、散歩先の公園での親子との交流、園庭開放や子育て支援事業に参加した保護者の育児相談から子育て支援ニーズを把握しています。 ・園庭開放を週2回実施しています。1月から一時保育事業を開始する予定です。 ・子育て支援事業として交流保育を実施していて、毎回10組以上の親子の参加があります。今年度は「わらべ歌で遊ぼう」「和太鼓教室」「七夕飾りを作ろう」を実施しました。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援事業や園庭開放の際に、保護者の育児相談に応じています。いつでも育児相談に応じていますが、その旨を通知していないので、今後は子育て支援事業のチラシなどに育児相談に応じる旨を載せることが望まれます。 ・必要な関係機関・地域の団体をリスト化していて、関係機関との連携は園長・主任が担当しています。必要に応じて、南区子ども家庭支援課、児童相談所、中部地域療育センターなどと連携しています。

評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・ 地域コミュニティへの 働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・くらき祭り、運動会等の園の行事に地域住民を招待しています。また、地域の高齢者と園児との交流会食会を実施しています。子ども会の餅つきにも協力しています。 ・地域が借りてくれた畑「緑の井戸端」で育てた野菜を高齢者と園児の交流食事会や民生委員主催の地域の高齢者食事会に提供しています。また、園長が地域の集まりに積極的に参加し、情報収集するとともに、保育園に対する地域の理解を得られるよう働きかけています。 ・子どもたちは散歩で地域に出かけ地域住民と挨拶を交わし交流しています。また、5歳児がお泊り会のハヤシライス材料を買いに地域の商店に出かけるなどし、交流しています。 ・地域のお祭りで5歳児と職員が和太鼓を演奏しています。
<p>- 2 サービス内容等に関する 情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに園の情報を分かりやすく掲載しています。また、横浜市子ども青少年局のホームページ「はびねすぽっと」に園の情報を載せています。 ・利用希望者に対してはパンフレットを用い、保育園の基本方針やサービス内容について分かりやすく説明しています。また、保育園見学会を複数回実施しています。
<p>- 3 ボランティア・実習の 受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアや実習生受け入れのマニュアルがあり、それに基づき保育園の方針や配慮することを伝えています。 ・地域のボランティアグループが長期にわたり奉仕活動として園庭や砂場の整備等の環境整備をしています。また、保育学生の学生ボランティアを受け入れています。 ・実習生の受け入れに当たり実習目的に応じたプログラムを用意しています。実習終了後は実習生と意見交換し、感想を聞いています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所の理念・方針に関する人材育成の取り組みとして、法人が研修計画を作成しています。新採用・中途採用職員を対象とした「新人職員研修」で基本理念を学び、その後法人企画委員会が計画した研修を受講するように計画しています。 ・ 法人研修企画委員会は、内部研修として毎年度法人全職員を対象とした研修計画を作成します。法人研修は年に4回企画され、職員・非常勤職員とも必要な職員が受講できます。 ・ 園内研修として、保育士向けに音楽指導研修が年12回定期的に行われ、栄養士・調理師向けにスーパーバイザーによる研修が年4回程度実施されています。 ・ 非常勤職員は常勤職員と同様に法人研修を受講することが出来ます。必要なマニュアルも配布され、ノロウィルスの対策等日々の業務で必要に迫られてくることは常勤職員と共に実地で具体的に学んでいます。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の技術の向上を目指し、園内で外部の指導者から音楽指導と体育指導について学んでいます。音楽指導は各クラスの子どもへの指導が保育士によって変わらないことを目指し、毎月1回実施しています。体育指導は指導者が子どもに指導している時に保育士が指導補助として手伝い、それを自らも子どもに指導することによって学んでいます ・ 保育士が自らの実践の振り返りをするために、指導計画には振り返りと自己評価の欄を設け、実践の評価と改善に努める仕組みにしています。しかし、振り返りや自己評価と指導計画のねらいとの関連性が弱く、今後の課題となっています。 ・ 年度末の職員会議で理念や保育の方針等に沿って保育所としての課題を導き出し、保育所としての自己評価をしています。 ・ 保育所の自己評価は公表するまでに至っていません。どのような形で行うかを今後話し合う予定です。
<p>- 3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初任者、中堅、リーダー、主任それぞれについて期待される役割が研修計画に明示されています。 ・ 現場の職員のうち、主任、リーダーにはそれぞれ必要な権限を委譲することによって責任を明確にし、他の職員には係活動において責任を明確にしています。 ・ 保育士には主任が面接し、調理職員にはスーパーバイザーや主任、園長が意見を聞き、職員の満足度や要望を把握しています。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所として守るべき法・倫理は「久良岐母子福祉会倫理綱領」に明文化され、毎月の職員会議の初めに全員で読み上げ、周知しています。また学ぶべき規範は就業規則に明記されていて、誰でも見られるようにして保管しています。 ・給食の残采を畑で堆肥化し、肥料として使用し、ゴミの減量化やリサイクルを実施しています。 ・環境係が中心となり省エネルギーの促進、緑化の推進を進めていて、夏のエコ対策として緑のカーテン用のメロンやゴーヤ、へちま等を栽培しています。 ・新聞等で公表された他施設での不適切な事例等を職員に周知していますが、それを基にして研修を実施するまでには至っていません。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・理念や基本方針は園内に掲示し、新入職員には配布しています。また、年度初めの職員会議で理念や基本方針を理事長、園長から説明し、周知しています。 ・保育所としての重要な意思決定、例えば、園児全員に使用していた詳しい連絡帳を乳児のみにするように変更した場合には、前年度の懇談会で説明し納得を得て実施しました。 ・主任はフリーの立場で現場に入り保育士の個別面談も行き、個々の職員の業務状況、能力や経験を把握していて、的確な助言や指導をしています。 ・職員は主任に業務上のこと以外に、私的な生活面精神面でも小さなことでも相談が出来、主任はそれに対し具体的な助言・配慮等をしています。 ・現在、主任がスーパーバイズできる実力をつけるために、各種主任講座やスーパーバイズ研修を受講するようにしていますが、計画的な育成プログラムの作成は今後の課題です。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業運営に影響のある情報の収集・分析について、園長は法人の幹部会議で共有し、保育所運営に影響のある重要な情報は園に持ち帰り、リーダー会議で話し合い課題としています。 ・次代の組織運営に備え、園長は退職した園長たちの意見も参考にして、幼稚園、認定子ども園等も視野に入れた新たな仕組みの可能性を検討しています。 ・しかし中長期的な事業の方針は様々な要因により未だ定まらず、計画の策定には至っていません。



利用者家族アンケート分析

【実施概要】

実施期間：2013年10月10日～2013年10月25日

実施方法：利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡しで配付、評価機関に郵送で直接送付してもらった。

回収率：配付110件、回収65件、回収率59.1%

*以下に述べる満足度とは「満足」「どちらかといえば満足」の答えを合わせたものです。

【結果の特徴】

- ・問1の「保育目標や保育方針」については約80%の保護者が「よく知っている」「まあ知っている」と答えていて、その全員が「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えています。保育目標・保育方針は保護者の賛同を得ていると言えます。
- ・比較的満足度が高いのは、問2、問4、問6の項目で全ての項目が80%以上の満足度となっています。中でも「遊び」の項目については全ての項目が90%以上で、自由意見にも広い園庭での外遊びや自然との触れ合いに対する賛同の意見が多く見られます。
- ・全ての項目の中で最も満足度が高いのは、「お子さんが保育園生活を楽しんでいるか」の98.4%で、保護者が子供の様子を見て満足していることが伝わります。
- ・一方、「施設設備」と「外部からの侵入を防ぐ対策について」は約30%の保護者が「どちらかといえば不満」「不満」と回答していて、自由意見にも老朽化に伴う耐震性や園の不審者対策について説明を求める声が見られます。安全面についての園の方針や対策を、保護者に説明するためのさらなる工夫が必要かと思われます。
なお、「アレルギーや障がいのあるお子さんへの配慮」について、自分の子どもが「該当しないので詳しくは分からない」という理由で、約20%の保護者が「その他」「無回答」となっています。
- ・保育園の総合評価は満足度が95.4%、不満度が4.6%です。ほとんどの保護者が園に満足していると言えます。
- ・自由意見には「子どもたちが伸び伸びと育っている様子がよく分かる」「子どもが認められ大切に育ちを支えてもらっている」「音楽や和太鼓、体育、植物を育てるなど色々な活動があって良い」などの感謝の言葉が多数あります。反面、「子どもの様子をもっと知りたい」「先生とのコミュニケーションをとりにくい」「お迎えが遅くなると様子が伝わらない」等の声もあります。
- ・全体として保護者の満足度は高く、子どもが園を楽しんでいる様子に満足しています。ただし、園の方針について保護者に伝わっていないと思われる回答も見受けられます。園が大切にしている保護者との会話にさらに努めるとともに、保護者の意見・要望を幅広く吸い上げるためのさらなる工夫が期待されます。

利用者家族アンケート集計結果

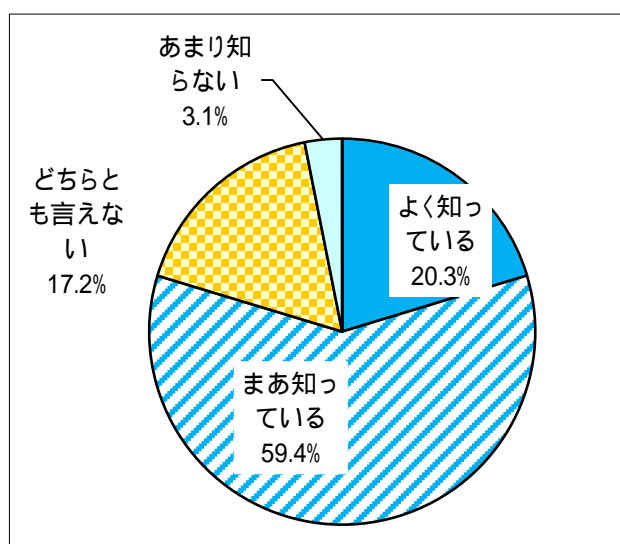
調査期間： 10月10日～10月25日

回収率： 59.1% (110件配付、65件回収)

	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
クラス別回答数	7	10	13	12	12	11	0

(%)

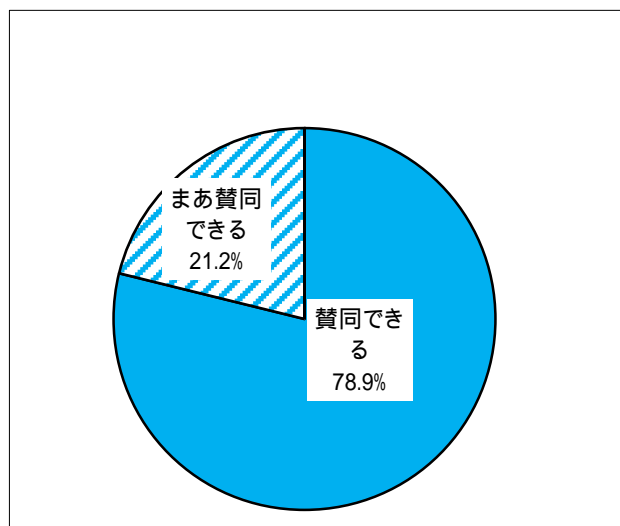
問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
あなたは、この園の保育目標や保育方針をご存じですか	20.3	59.4	17.2	3.1	0.0	0.0



付問1:

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	78.9	21.2	0.0	0.0	0.0	0.0



問2: 入園する時の状況について

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
見学の受入について	66.2	21.5	1.5	1.5	9.2	0.0
入園前の見学や説明など、園からの情報提供について	61.5	30.8	3.1	3.1	1.5	0.0
園の目標や方針についての説明には	61.5	30.8	1.5	1.5	1.5	3.1
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育暦などを聞く対応には	60.9	34.4	0.0	3.1	0.0	1.6
保育園で1日の過ごし方についての説明	60.0	33.8	0.0	3.1	0.0	1.5
費用やきまりに関する説明には	52.3	41.5	3.1	1.5	1.5	0.0

問3: 年間の計画について

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
年間に保育や行事についての説明には	43.1	47.7	3.1	1.5	0.0	4.6
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているか	32.3	46.2	4.6	4.6	7.7	4.6

問4: 日常の保育内容について

(%)

「遊び」について	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては	60.9	29.7	1.6	1.6	1.6	4.7
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	76.9	15.4	3.1	1.5	0.0	3.1
園のおもちゃや教材については	66.1	24.6	1.5	1.5	3.1	3.1
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	80.0	15.4	0.0	1.5	0.0	3.1
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分持っているか	63.1	29.2	3.1	1.5	0.0	3.1
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	68.8	25.0	1.6	1.6	0.0	3.1

(%)

「生活」について	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	63.1	32.3	0.0	0.0	1.5	3.1
お子さんが給食を楽しんでいるか	67.7	24.6	3.1	1.5	0.0	3.1
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについて	70.8	24.6	1.5	0.0	0.0	3.1
昼寝や休息がお子さんの状況に応じて対応されているか	56.9	27.7	7.7	1.5	3.1	3.1
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているか	61.5	29.2	1.5	1.5	1.5	4.6
お子さんの体調への気配りについて	64.6	27.7	3.1	1.5	0.0	3.1
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	61.5	24.6	9.2	1.5	0.0	3.1

問5： 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
施設設備について	36.9	29.2	23.1	3.1	4.6	3.1
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているか	52.3	41.5	1.5	1.5	0.0	3.1
外部からの不審者侵入を防ぐ対策について	18.5	35.4	21.5	7.7	9.2	7.7
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供について	69.2	23.1	1.5	1.5	0.0	3.1

問6： 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会について	41.5	38.5	13.8	1.5	1.5	3.1
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供について	69.3	24.6	0.0	3.1	0.0	3.1
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	44.6	36.9	7.7	6.2	1.5	3.1
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換について	47.7	40.0	7.7	4.6	0.0	0.0
お子さんに関する重要な情報の連絡体制について	47.7	43.1	6.2	3.1	0.0	0.0
保護者からの相談事への対応には	40.0	44.6	9.2	4.6	1.5	0.0
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる対応には	52.3	36.9	3.1	1.5	4.6	1.5

問7： 職員の対応について

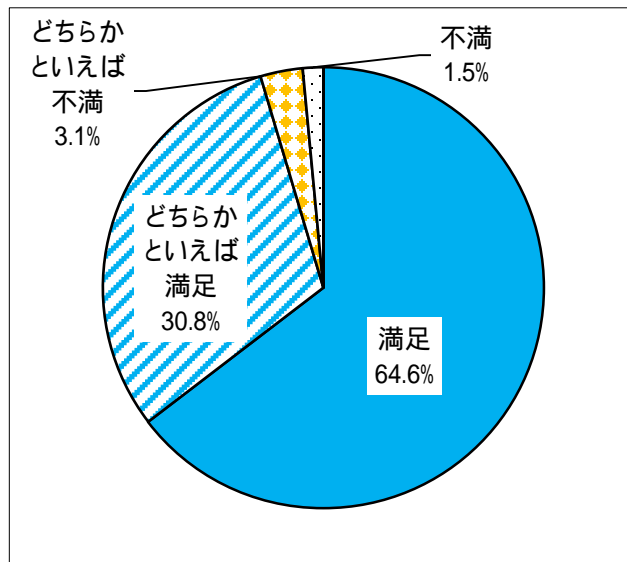
(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされてされているか	67.7	23.1	4.6	1.5	3.1	0.0
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているか	69.2	29.2	0.0	1.5	0.0	0.0
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮について	50.7	23.0	0.0	4.6	15.3	6.1
話しやすい雰囲気、態度であるかどうか	53.8	36.9	6.2	1.5	1.5	0.0
意見や要望への対応について	43.1	40.0	7.7	6.2	1.5	1.5

問8： 総合的な評価

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	無回答
総合満足度は	64.6	30.8	3.1	1.5	0.0





利用者本人調査

【実施概要】

実施日時：2013年11月28日、2013年12月2日

実施方法：午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また幼児とは会話の中で適宜聞き取り調査を実施。

0歳児クラス

この日は乳児専用の園庭で遊びました。よちよち歩きです。良く歩けない子どももあちこちにつかまりながら歩きます。てんでに滑り台、砂遊び、三輪車、斜面に自動車を並べる、ボール投げなど、よく遊びます。保育士はそばで見守り、声を掛け、砂を器に入れてみせるなど遊び方を教えたりしています。子どもと子どもとの距離が近かったり、物を取り合ったりする時には声をかけ、他の遊びに誘ったりして適当な距離を保つように誘導します。保育士は目を合わせて話しかけ、保育士と子どもの視線が交差していて信頼感が感じられます。保育士のやさしい心配りに守られ、子どもたちは落ち着いて遊びに集中していました。

十分に遊んでから保育室に入りました。保育士が絵本を読みだすと何人かが集まります。他の子どもはコマや車で自由に遊んでいます。その間に順番にオムツ替えです。オムツ替えが終わると保育士がドングリの歌を歌い始めました。すると子どもたちは次から次へ横になってごろごろ転がり始めます。ウサギがピョンの歌を歌うと皆ではねます。保育士が歌う歌に合わせ、子どもたちは機嫌よく元気よく身体を動かします。歌や絵本で子どもたちはゆったりとした時間を過ごしながらか給食を待っていました。

1歳児クラス

1歳児クラスは16名の子どもが落ち着いて生活できるように、二つのグループに分けています。この日は園庭で遊びましたが、遊びは全員いっしょです。帽子はほぼ全員が自分でかぶり、靴を自分ではく子どももいます。

遊びは活発です。他の子どもとの関わりもあります。アスレチックのような網を登って滑り台の上に到着する子どもがいます。三輪車も人気です。足でこいで走ります。何人かが列になって走っていると、保育士が砂の地面に線路を描いてくれました。一台がひっくり返ると後ろの子どもがバックしてあげました。転んだ子どもは泣かずに起き上がり、また列になって走ります。わざとこぎにくいところへいく子どももいます。園庭のはしのごろごろした地面を選んだり、滑り台の下をくぐり抜けたりします。三輪車を乗り捨てて別の遊びをし、また三輪車にもどってくると、他の子どもがその三輪車に乗っていてトラブルになりました。保育士がすぐに来て、2人と話し合い、後の子どもが別の三輪車に乗り、解決しました。4人の保育士が広い園庭のあちこちにおいて全体に配慮し、子どもが泣いたりトラブルが起こるとすぐに行きます。

食事の前に何人かがトイレに行きました。保育士が一人つきます。自分でズボンを下げて座り、「先生出たー」と知らせる子どももいました。

2歳児クラス

2歳児クラスも2グループで小集団保育をしています。部屋を低い絵本棚で少し区切っているだけです

が、子どもたちは別のグループの方へは行きません。集会中も保育士の話に集中し、別グループの動きに気を取られる子どもはいません。小さいルールもあります。皆で手を洗う時には3人ずつ、一つの蛇口に並びます。少しずつ集団ルールを経験中で、まだ順番に前に進むことがうまくできないので、保育士に教えてもらっています。

園庭に出ると保育士の合図を待って一斉に走り出し、自分で遊びを考え出します。物置に行ってボールを取って来てプールに放り投げて遊ぶ子ども、虫入れケースを持ち出して園庭で虫を見つけ「バナナ虫」といってケースに入れる子ども、帽子のつばに落ち葉を顎紐で止め、お化けの真似をする子ども。保育士は基本的に自分のグループの子どもを見ているようです。

この日は手形もとりました。子どもたちは作品よりも、作る工程に興味があるようでした。終わった子どもは、手を洗って絵本を読んで待っている約束です。おもちゃをもってきて注意される子どももいました。

食事の後は、食べ終わった子どもから歯みがき、うがいをし、コップを袋にしまい、着替え、絵本をもって布団へ、となります。その流れは良く理解していました。

3歳児クラス

3歳児クラスは今年度は「食」をテーマにしています。グループが5つありますが、お寿司の具を考えて自分たちのグループ名にしました。えび、いくら、卵、まぐろ、サーモンです。また、ランチョンマットを手作りしました。お椀、茶碗、お皿、箸を正しい位置に置いた絵に、好き好きに色をぬり、色紙をはり、防水シートを貼って作品に仕上げたものです。食器の並べ方を認識することも目指しています。

保育士は場面が変わるごとに必ず次のスケジュールを「このあとやることを3つ言います。1こめ○○○〜」というように説明し、約束を確認します。子どもは保育士が話をしているときは皆保育士のほうを向き、静かにしています。少し声を出すと、「今お話しする時間?〜」と保育士が子どもを制していました。

園庭で思いっきり走り回り遊んだ後、給食時になると、子どもたちは給食袋からコップとはしを持ってきて準備します。保育士が今日の献立のボードを持ってきて説明します。そしてグループごとに呼ばれて、保育士がよそったおかずの皿、ごはんを一人一人順番に取りに行きます。食事中子どもたちはおだやかで、大声をあげたり、ふざけたりする子どもはいません。お箸を使っている子どもが半分以上です。お代わりタイムになるとお代わりしたい子どもが手を挙げて、お代わりをもらいます。ごはんのみそ汁は売り切れしました。なかなか食事が終わらない子どももいて、嫌いらしいものを保育士が減らしてあげていました。

4歳児クラス

この日の一斉活動は折り紙で、靴下と星を作りました。星作りは紙を折ってはさみで切り の形にします。「切っている?」「先生、いい?」と保育士に確認する子どもが多いです。

園庭では様々な遊びが展開します。砂場でケーキ屋さんごっことお山ごっこのどちらをしたいかでもめていた二人は話し合い、ケーキ屋さんがお山のお手伝いをすることで落ち着いて遊びだしました。そこに工事ごっこをやりたいもう一人が加わり、お山の上の工事中のケーキ屋さん、と、次第に複雑になっていきます。三輪車組では逮捕ごっこが始まったり、アスレチックの鬼ごっこ組にかくれんぼをしたい子どもたちが合体して、鬼ごっこ+かくれんぼの遊びが始まりました。また、大縄を一人が持ってきて縄跳びが始まると、子どもが少しずつ集まります。子どもからの依頼で保育士が回す役を引き受け、大波小波、郵便屋さんなど子どもの要求とレベルに応じて回し方や速度を変え、上手にできない子どもにも丹念に付き合っていました。

一人の子どもが回すときに転び、転んだのをみて笑った、と泣き出すと、子ども同士でお互いに注意し合い、笑った子どもが謝りました。笑われた子どもが一人で隅に座って気持ちを落ち着かせているところへ保育士が近づき、話を聞いていると、それを見て他の子どもも心配し、一緒に話を聞いていました。

5 歳児クラス

朝の集会で今日の活動について保育士が小さく優しい声で説明し、子どもたちは静かに耳を傾けます。その日は卒業アルバムの表紙作りをする子どもと木製ブロックで遊ぶ子どもに分かれました。

アルバムの表紙に自由画を描きます。一人一人じっくり取り組みます。終わると保育士に見てもらいながら自分の名前を書き入れます。字を家で練習してきた子どももいます。次は自分が折った鶴の羽を開いて糸でつなげる作業です。1人が鶴の羽をうまく開けず「もうやだ」と投げ出すと、隣の子どもの「今あきらめたらできないよ」と励ましていました。羽を開いた鶴に糸を通した針を使う作業は真剣に黙々と進み、保育士が見守っていました。木製の繊細なブロックの組み立ては人気の遊びのようで、一人で或いは複数で真剣に取り組みます。ブロックが足りなくなると、取り合いではなく、グループが合体して皆で一緒に組み立て、トラブルは起きませんでした。保育士が、「とっておくことのできない一回限りの作品だから」と、出来上がった作品を写真に撮っていました。

給食は当番が活躍します。タオルをしぼって、自分のグループの机を拭きます。絞り方、拭き方を保育士が見守り、指導します。次に当番が一行に並んで、保育士がよそご飯と副菜を一つずつ自分のグループに運んで行き、正しい位置を考えながら並べます。これにとても時間がかかりますが、他の子どもは両手を膝において黙って待っていました。

まとめ

全体的に保育士の声は小さく、子どもたちは約束事を守り静かです。しかし、いったん園庭に出ると元気いっぱい、力いっぱい体を動かし、子ども同士で遊びが豊かに展開していきます。乳児園庭と幼児園庭とが別れていて、どちらも広々とした、自然の中で子どもの遊びが育つような恵まれた環境です。保育士も子どもたちも細かいことはあまり気にせず、のびのびと遊んでいました。



事業者コメント

昭和 26 年の開設以来、63 年の歴史と地域に根ざした事業を展開してきました。しかしこれからの社会状況の変化や制度移行も視野に入れ、職員が目的をひとつにして第三者評価を受審したいと考えました。特に職員ひとりひとりの自己評価をクラスで意見交換しそこから保育園としての自己評価にまとめられたことは大変でしたが気づきも多く次の課題へとつながりました。今後も、園児保護者や地域の方々とのコミュニケーションがさらに強いものとなり、より信頼される保育園になるよう職員とともに努力したいと思っています。

園長 内田礼子

福祉サービス第三者評価 評価機関

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号
横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

〒231-0013 横浜市中区住吉町 2-17 金井ビル 201 号室

TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118

<http://www.yresearch-center.jp>



特定非営利活動法人
**よこはま
地域福祉
研究センター**

Yokohama Community development Research center
